

箕面市子どもの生活実態調査 報告書

平成 13 年（2001 年）3 月

箕 面 市

はじめに

近年の都市化や情報化の進展、出生率の低下による少子化、核家族化の進行などによって、子どもと家庭を取りまく環境は大きく変化してきています。

特に少子化は、異年齢の子どもたちの交流機会を減少させ、子ども同士の遊びの中で自然に習得できていた基本的な生活習慣や、自律心などの社会性を身につけることを困難にするなど、子ども自身への影響が懸念されています。

こうした状況を背景に、近年、子どもの健やかな育ちを社会全体の課題としてとらえ、とりわけ学校・家庭・地域が各々の役割を果たしながら、相互に連携を進める取り組みがなされています。

本市においては、平成 11 年（1999 年）10 月「箕面市子ども条例」を制定施行し、子どもが幸福に暮らせるまちづくりをめざして、市民と市が協働する決意を明らかにしました。

また「箕面市保健福祉施策推進委員会子育て総合施策検討部会」において、新しい時代を担う子どもたちがのびのびと育ち、心豊かな人間として成長するための総合的な子ども施策についてご検討いただき、平成 12 年（2000 年）3 月には、出生時から青年期に至る子どもの育ちを総合的に見据えた子ども施策の必要性や、教育や福祉の枠を超えた総合行政の推進、学校・家庭・地域の連携の強化を求める最終報告書を取りまとめていただきました。

「箕面市子ども条例」、「総合的な子育て支援策（最終報告）」を踏まえ、今年度、本市の子どもの生活や親の子育て意識等の実態、子育て支援への要望等を把握するため、子どもの生活実態調査を実施いたしました。この調査結果は、今後 10 年間の総合的な子ども施策の道しるべとなる「箕面市子どもプラン」を策定する際の基礎資料として活用いたしました。さらに、今後の施策を進めるうえでの貴重な資料となるものと存じております。

最後になりましたが、本調査の実施にあたり、熱心にご討議いただきました「子どもの生活実態調査検討会議」の委員のみなさま、アンケート調査にご協力いただきました市民のみなさまをはじめ、関係者の方々に対しまして、心から厚くお礼申し上げます。

平成 13 年（2001 年）3 月

箕面市教育委員会

教育長 中 垣 芳 隆

目 次

．調査の概要	1
1．調査目的およびその用途	3
2．調査内容	3
3．調査対象と調査方法	3
4．回収結果	4
5．報告書の見方	4
6．回答者の属性	5
．調査結果の要約	11
．事項別調査結果	23
1．家族の姿	25
1．家族の状況	25
2．基本生活時間	27
3．生活習慣	30
4．家族関係	34
2．地域とのかかわり	44
1．子どもの地域活動	44
2．保護者の地域活動	53
3．地域の大人・子どもとの関係	56
3．子どもの状況	61
1．日常生活時間	61
2．ふだんの遊び・過ごし方	65
3．友人関係	70
4．塾や習いごと	76
5．家庭生活	78
6．17歳における学校生活・職業生活等	89
4．親の状況	95
5．子どもの考え方・親の考え方	107
1．子どもの考え方	107
2．親の考え方	117
3．親子の違い	127
6．箕面市の施策	144
1．子どもの養育状況	144
2．保育所・保育サービス	145
3．幼稚園	149
4．子どもの居場所	151
5．施策全般	156

. 実態調査検討委員がデータを見て感じたこと、考えたこと -----	159
. 参考資料 -----	165
子どもの生活実態調査検討会議設置要綱 -----	167
子どもの生活実態調査検討会議委員名簿 -----	168
子どもの生活実態調査検討会議経過 -----	169